【ねがいましては】

平成２１年３月２３日　　*KYOWA SCHOOL*
第２２１号

「Ｉさんからの贈りもの」

昨年８月末、Ｉさんから突然の電話がありました。担任の先生から、夏休みに入る前の２者面談の際、「もう少し、計算にスピードがあれば・・・。」とのお話に動揺、夏休み中に何とかしなければの意気込みで、計算力取り戻し勉強のスタート、結果よくあるケースなのですが、お母さんの感情ばかりが空回りし、あえなく両者共々冷戦状態に･･･。

こうなると、もうお母さんの精神状態は最悪の方向へ向かって行くばかり、そんな折、KYOWA のホームページを発見、お電話されたとのことでした。お子さんは１年生男の子。

成績という、こころをマッシロにしてしまうこの２文字は、家庭崩壊や引きこもり、最終的には非行といったところにまで繋がってしまうやっかいものです。

Ｉさんのお子さんは９月からスタート、そろばんもだんだんと板についてきました。はじめのうち見せていたどことなく『どうしよう』の表情も最近では全く感じなくなりました。

なによりも私が嬉しいのは、あの初めてお電話をいただいたときよりお母さまがずっと元気になられたことです。家の中で一番明るいのは、いつでもどこでもお母さん。お母さんにいつも笑顔があるかぎり、そのお家の中はポッと明るくなります。そんな中で生活する子どもたちは、とても心が落ちつき安心感に包まれます。子にとって環境がしっかりと整った状態にあります。

そして１２月も押し迫ったある日、Ｉさんご家族がフルメンバーで教室へ来られました。ご主人様、お母様、１年生のＴ君、そしてまだオムツ状態のあかちゃん。ちょうどその日はくりたのランチをしていましたので、中学生たちともウバウバ・・・。そして帰ることになって玄関先、突然Ｉさんが手を差し出しました。

「私たち家族は、毎日玄関で握手をすることにしているんです。」

「えっ、はあ・・・そうなんですか、ありがとうございます。」

面食らった私は、その程度の言葉しか発することができずに、お母様、そしてお父様と握手をしました。

玄関先で握手をして別れる・・・なんて素敵なことなんだろう。私の先生稼業３０年の中で始めての出来事。

素晴らしい家族に出会えたな・・・しばらく感動に浸っていました。

家族がひとつであること、それが何よりも大切なこと。『成績』という言葉など、簡単に隅へ追いやられてしまう温かいつながりを、いつまでもいつまでも見せていただきたいものと思っています。

ふとキャンプのことを思い出しました。暗い樹海の中で、子どもたち全員が手をつなぎ、私からのメッセージ「今の手のぬくもりを覚えておいてね。次だ、そっと手をはなしてごらん。さっきと同じように、手をつないでいるかのように感じてごらん。・・・ねっ、つないでいるでしょ。そしてそのぬくもりを、家に帰ったらおうちの人にくばってね。それができたなら、このキャンプで私が伝えたい一番大切なものを学んだことになるんだ。」

キャンプに参加した子たちにしか伝えられないのかもしれませんが、家族に見切られ、たった一人で樹海へたどりついた方々の気持ちは想像を絶するものであるはずです。しかし、この子たちがしっかりと家族の心の手を握りしめているかぎり、ひとりにはなりません。

ひとがひとを助けて初めてひと・・・となりのひとのこころにそっと手を差しのべてひとになり、差しのべられたひとは、またとなりのひとに手を差しのべる。こんな気持ちで学校へ行けたら、こんな気持ちで家族と団欒を囲めたら・・・。子どもたちの想いはひとつ・・・家族全員が仲良くあってほしい・・・。クラスのみんなが仲良くあってほしい・・・。そんな中で思い切り勉強ができたらな・・・。

前回の【ねがましては】でも記しましたが、地区主催のニューイヤーカップ２００９、その折にＩさんご家族も来られました。家族全員で・・・。クロージングのスライドの最後に、そっと小田和正さんの「ダイジョウブ」が流れ始めます。『きみの笑顔は、みんなをしあわせにしているよ。』･･･ロゴが流れます。そして曲の最後に『笑顔、ありがとう』と締めくくります。実は、この曲もロゴもシナリオにはなかったのですが、私の独断で入れさせてもらいました。

この会場へ来られたすべての方々に、「勝ち負けがすべてではないのです。家族がひとつになることが一番大切なのです。」と、伝えたかったのです。子どもたちの笑顔は、周りの人たちのこころの手をつなぐ手助けをしてくれます。つまり、平和な世の中をつくるための大切なものです。皆、温かいこころで帰っていただきたかったのです。

会場を後にするときＩさん家族から、また温かいおもてなしをいただきました。

「またいつものように・・・。」握手をしていただきました。

きっと私が一番あたたかい気持ちで会場を後にしたのでしょうね。

こどもたちよ、今、きみのとなりにいる人の心の手をそっとにぎってあげてください。

そう、君自身があたたかくなること・・・わかったでしょ。

ありがとう。